

令和5年度 第1回高浜市介護保険審議会
令和5年度 第1回高浜市地域包括支援センター等運営協議会 議事録

日時：令和5年8月7日（月）
13時30分～15時20分

場所：いきいき広場 いきいきホール

[出席者]

【委員】11名

野口 定久（会長）、神谷 龍一、平山 昌秋、辻 一代、古橋 香代、林 三郎、
中川 正俊、鵜芦 由未子、岸上 善徳、鯉江 伸悟、神谷 美百合

【事務局】

磯村 和志（福祉部長）、都築 真哉（介護障がいGL）、小林 春奈（同G主査）、
多武 利康（同G主任）野口 真樹（福祉まるごと相談GL）、山本 静江（同G主査）、
安藤 美津子（同G主査）、福井 大地（同G主査）、高月 桃子（同G主査）、
坂倉 京子（同G主査）

1 開会

○資料確認

事務局：会議録の確認につきましては、会議開催後、会長と会長からご指名頂いた委員に確認
の上ご署名を頂きます。

2 あいさつ

会長挨拶（野口会長）

会 長：会議録の署名につきましては、岸上委員にお願いします。

3 委員及び事務局紹介【資料1】

4 議事

(1) 第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画について

・アンケート結果報告について【アンケート結果報告書】

（事務局より資料説明）

委 員：介護サービスを行っている事業者名を、補足資料としてアンケートの末尾等に具体
的に記載したほうがよりわかりやすく、またPRにもなると思いますが。

事務局：どのような事業所があるかについては介護サービス事業所の一覧を作成しており、
ご紹介の際には使っています。

委員：今後、サービス付き高齢者向け住宅の実態部分というものも把握し、分析し、討論等をして、その方向性というものも見ていかれたら良いのではないかと思います。

事務局：事務局としても、分析を進めております。

会長：情報として、介護サービス事業者やサービス付き高齢者向け住宅関係の一覧を広く市民の方に情報提供することは必要だと思います。それをどのように公表するのか、という点は検討していただきたい。サービス付き高齢者向け住宅については良し悪しもありますので、そういった分析についても行っていただきたいと思います。

委員：人材の育成、確保に苦労しているということですが、2番目の課題として利用者の確保というものが上がっていますが、これはどのように理解したらよいのでしょうか。

事務局：人材の確保が難しいことにより、利用者を受け入れきれない面があると思いますし、新しく立ち上げられたサービスなどでは、利用者さんの確保が難しいといった面もあります。

委員：特別養護老人ホームの利用者の確保というところでは、利用者のニーズもあります。例えば利用料の負担額が違います。地域密着型は、ほとんど待機者がいない一方、従来型の待機者は多くいるものの、今入るべきなのかどうか迷われる方も多く、利用者の確保ができないという状況があります。また、この西三河南部では、最近たくさんの特養ができており、そちらに行かれる方もいるので、現実として利用者の確保は課題になっています。どのサービスも利用者の確保には事業者側の努力が鍵となっていて、特色を出すなどをしてアピールしていかないとなかなか利用者を確保できないと思います。

委員：地域密着型特別養護老人ホームでは、入所者が市民に限定されていることもあり、あとは医療体制が24時間整っていないといけない方が入所できないというところもあり、利用者の確保というところで問題として上がっています。また、当法人は居宅介護支援事業所が高浜市に無いことも、集客につながらない原因になっていると思います。在宅サービスの集客というところでは、デイサービスは入れ替わりが激しく、その分利用者を受け入れないといけないというところで苦労しました。

・高浜市の介護サービスの現状分析について【資料2】

・第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の評価と課題について【資料3】

(事務局より資料説明)

委員：何かあったときの相談相手について「市役所(いきいき広場)」が9.9%、「そのような人はいない」が38.9%という数字があります。今後いきいき広場をどう相談窓口として周知していくのか。

事務局：いきいき広場が各種の相談窓口ということで色々とやってきているつもりです。工夫をしながら周知をしていきたいと思います。各種事業に関連する事業者や民

生委員等に繋げていただくことや、職員が地域に出た際に地域の皆様に直接お伝えすることも1つの手立てだと考えています。

委員：ホコタッチの所持率が49.0%を占めているという記述があります。目標としてはもっと高いと思いますが。

事務局：この数字はアンケート調査の結果ですので、アンケートに回答して下さった方の中での割合です。

会長：ホコタッチの所持率が49.0%ということは非常に高い数字だと思います。ただ、この結果だけではなく、ホコタッチを所持している人の健康にどれだけ貢献しているかというデータは、国立長寿医療研究センターから返ってこないのか。

事務局：国立長寿医療研究センターとは定期的に会合を行い、データを返してほしいということはお願いしています。年2回出している「でいでーる」に毎回で分析結果を入れ、外出をすること、地域の皆様と交流することが介護予防や健康増進に繋がっていることについてお示ししています。ただ、まだ十分な分析ができていないので、分析結果については都度ご提供いただき、情報発信ができるようお願いしています。

会長：いきいき広場の利用についても、第8期のアンケート調査と比較した分析が必要だと思います。そうした情報を積極的に市民の皆様を提供することが信頼度に繋がり、それが健康意識の高まり等の結果に結びつくので、そのあたりを意識していただければと思います。

委員：本市の認定率が低い要因として、同居世帯の比率が高いことや、通いの場の参加率が高いことが書かれています。ただ、ホコタッチについて、広がってはいるが頭打ちになっている面もあり、まだ知らない人もいます。スマートフォンにも同じ機能があるが、これだけのデータが出ているのであれば、もっと強力で推進していくことも必要だと思います。

また、令和5年度より高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業を開始したとありますが、もう少し詳しくこの内容を教えていただきたい。

事務局：保健事業の一体的実施については、国民健康保険や後期高齢者医療、介護保険といった施策、事業について、これまでは保険制度が違うことから個々で行っていたものを一体的に行おう、というものになります。これを行うためにコーディネーターを設置して、どの事業でどういうことをやっているのか、どういった対象者がいてどういう支援をすると効果が出るのかということ今年度から把握しつつ実施しています。

委員：それは高浜市独自の施策ということですか。

事務局：国の施策で、令和6年度までに全自治体に始めるよう言われているものです。これを高浜市に関しては1年前倒しで行っています。今年度はニーズの調査、対象者の把握が主となると思いますが、それらについて令和5年度から取り組んでいます。

事務局：市内に多くの健康自生地を創立できたことは、通いの場への週1回以上の参加率の高さに繋がっていると思います。今後も高齢者のみならず、全世代の方が集えるよう

な居場所をたくさん作っていきたいと考えています。ホコタッチについて、スマートフォンのアプリで同機能をもったものがあります。国立長寿医療研究センターが歩行と認知症の発症の関係を研究していますが、そこでもスマートフォンアプリを活用しながらやっているというのが実態です。ただ、後期高齢者の方の中にはスマートフォンを持っていない方も多く、ホコタッチを励みにされている方も多いため、しばらくはホコタッチを使っていく予定をしていますが、いずれは新しいものに変えていくタイミングが来ると思います。

会 長：国立長寿医療研究センターが認知症と歩行の関係を研究することは良いですが、高齢者の健康にどれだけ効果があるのかも知りたい。健康自生地の効果について、可能であれば高浜市独自で分析されてはどうですか。

事務局：平成27、28年度に「脳とからだの健康チェック」を行いました。10年経ったタイミングで60歳以上の方を対象に再度「脳とからだの健康チェック」を行い、個人にその結果をお配りすることで自分がどのような変化をしているのか確認していただくことを考えています。日々の状態については、ホコタッチの記録が印刷できるようになっているのでそこでの確認や、インターネットでホコタッチを活用している方のランキングが出ているので、利用者の中で今自分がどのくらいの位置にいるのか、ということが確認できるようになっています。

・計画の骨子及び基本理念等について【資料4】

(事務局より資料説明)

委 員：たかはま版地域包括ケアシステムの図で、それぞれの団体の現状として、高齢化によって人材不足、後継者不足が出てきています。また、学校関係も働き方改革によって地域とのつながりというものが後退せざるを得ないという状況にあり、実際には地域支援について非常に厳しい状況にある。これについては行政がてこ入れをしないと、今は良くてもいずれはできなくなる、そういう可能性を秘めていると感じています。

事務局：内閣府の統計では、2040年には全世帯の40～45%が単身世帯になるという予測が出ており、その単身世帯の多くは高齢者の単身世帯ということになります。高浜市内にある全世帯のうちの4割が単身の方、高齢の方となってしまうと、行政だけですべてを掌握していくことは難しいと思います。民生委員やまちづくり協議会、町内会といった地域の皆様の力添えがなければ把握ができなくなってくる。団体もそれぞれ高齢化をしてきて、次世代の担い手がない状況においては、やはり単身世帯の方々が、色々な団体等をつながりを持っていただかなければ地域の中で埋もれてしまうと思います。市としても、必要な世帯にアウトリーチ型で出向き、伴走的な支援をしていかなければならないと強く感じています。行政も地域の中の色々な団体と繋がって情報を掴んでいくことが大切だと思います。

会 長：学校関係の方との関係をもう少し開かれたものにできないか、ということは地域福祉計画のときにご提案申し上げましたが、どのように考えていますか。

事務局：学校は働き方改革等があり、地域と深い関係性を従来通り保てないという部分もある。いきいき広場の中には福祉部もあり、教育委員会もあるので、常に教育委員会とは連携をとりながら子どもの支援、それから高齢者の活躍の場所等について模索しております。

会 長：高齢者の単身世帯が増えていますが、孤立や孤独を感じている単身世帯の方たちに繋がりをつくっていくという点について、行政で行っていることをお知らせできるアプリを用意して、そこで相談支援を行う人たちが話をお聞きするような取り組みなど、行政も更に工夫をお願いしたいと思います。

(2) 令和4年度高浜市地域包括支援センター事業報告について

【資料5】

(事務局より資料説明)

委 員：新聞で、8050問題が深刻化しているということで、全自治体で引きこもり実態調査を行うことになり、今後は単なる医療や介護を紹介するというのではなく、もっと分析をしてどう対応をしていくのかという形で取り組んで行くという話を見ました。そうすると、地域包括支援センターに関しても人材の確保と共に質の向上が求められることを再認識しました。求められるものが多くなっていく中で、一致団結して取り組んでいただきたいと思います。

事務局：重層的支援について、体制づくりが今後の課題になってくると考えています。いきいき広場にはたくさんの専門職がいます。この専門職がどう連携していくか、お互いに協力しつつどう地域と連携しながら介護や支援をしていくか、それをとりまとめるのが福祉まるごと相談グループになると思います。支援する立場で一人ひとりに寄り添うことができる職員が、どれだけ育っていくかということが大きな課題だと考えています。

5 報告

(1) 高浜市内の介護保険事業者の指定、休止及び廃止の状況について

【資料6】

(事務局より資料説明)

<意見・質問なし>

6 その他

(1) 次回開催日程について

事務局：次回審議会は10月頃を予定しております。委員の皆様にご案内します。

7 閉会

以 上